



発行所
十勝毎日新聞社
©十勝毎日新聞社 2004

〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121

編集局 0155-22-2121
広告局 0155-23-2323
販売局 0155-24-2222
事業局 0155-22-7555
総務局 0155-24-2299

広尾支局 01558-2-4111
池田支局 01557-2-2367
本別支局 01562-2-2618
新得支局 01566-4-5524
札幌支社 011-261-2161
東京支社 03-3544-1365



飛行の安全性向上へ 高精度航法システムを実験

JA-XA

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は町多目的航空公園で、実験用小型航空機を使った高精度衛星航法システム「MSA-SIGAR」の飛行試験に取り組んでいる。同システムは同公園で実験を進めている「成層圏プラットフォーム」の定点滞空飛行船にも搭載されており、今回データを取得して高精度の新機能が確認されれば、同飛行船を自動で離着陸させることも可能という。

同システムは、地球測位システム(GPS)が発信する位置情報の精度を高める役割を果たす。国土省が来年2月に打ち上げ予定の静止衛星や、海上保安庁が設置している海岸沿いの基準局から発信する情報を享受でき、飛行の安全性向上が期待される。高精度衛星航法システムの機器を搭載して離陸する小型航空機

同公園での実験は2年ぶりで、今回は「CDG PS」と呼ばれる機能の実証を行っている。同公園内の実験棟から直接電波を発信し、位置情報の誤差を補正。狭い範囲でしか適用できないが、水平面内で0.7メートル、高度方向で1.1メートルの最大誤差で位置を示し、極めて高い精度を誇る。

同システム機器の小型化にも着手し、重量6キログラム、消費電力35ワット、製作コストは従来の5分の1の1000万円程度にとどめた。

8日現地入りしたJA-XAの実験隊8人は、速度や高度などを確認しながらの飛行実験を15日までに予定。中心メンバーの張哲正氏(工学博士)は「今回は半導体を利用した航法装置の実験も行っている。これらの技術が将来実用化されれば、飛行機や自動車の無人操縦も可能になる」と話している。

(松村智裕)